

# 「協力一致」

～心を一つにして、  
力を合わせること～



執行委員長 下川 光男

明けましておめでとうございます。

組合員並びにご家族の皆様におかれましては、平安で恵みのある新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。

日本経済は、緩やかな回復傾向であると言われています。しかしながら、労働者及び生活者からすれば、経済効果の実感がなく、未だ国民生活の改善とは言い難い状況と言えます。このような状況の中、労働者を取り巻く環境は、雇用労働者の3人に1人以上が非正規労働者であり、年収200万円以下で働く、いわゆるワーキングプアと言われる労働者が1100万人、生活保護受給者は200万人を超えていると言われ、社会問題の一つとされなければなりません。働くものの暮らしや賃金問題を中心とする労働条件は傷んだままであり、厳しい環境におかれているのが現状ですが、これを打破するためにも連合が掲げる「働くことを軸とした安心社会」の実現に向け、全印刷としても運動を展開して行くことが重要です。

さて、国立印刷局は行政執行法人へ移行して、これまで以上に国の相当な関与の下で密接な連携を図りつつ課せられた事務・事業を正確かつ確実に実施することが求められています。今現在、組合員皆様のご協力により安定的かつ確実な事業運営を維持しています。引き続き、国立印刷局が製造する製品は、国民生活に密接に関わってくることから、国民からの信用・信頼を失墜されることがないよう将来にわたり安定的かつ確実な事業運営を継続していくことが重要です。また、組織内の取り組みでは、組織内へと軸足を移した運動の一環として「もう一度組合員と話そう」をテーマに、昨年から雑談形式による分会との対話活動を進めてきました。今後も対話活動を基本に、職場環境整備等の改善に向け取り組みを展開していきます。

最後になりますが、全印刷小田原支部は2015年12月6日に各支部に先駆けて結成70周年を迎え、結成70周年を節目とし伝統と歴史を肝に命じ、新たな気持ちで運動をスタートしました。これまで諸先輩から引き継がれてきた「労働組合は、執行委員で成り立っているものではなく、組合員皆様の参加があって成り立つもの」「組合員の皆様と心を一つにして、力を合わせること」を忘れることなく、気軽に会話・相談・雑談が出来る支部体制を更に整えることを念頭に置き、執行部一同、誠心誠意取り組んで行きたいと思いをします。

本年も、全印刷小田原支部の各種取り組みに対し、更なる組合員の皆様のご理解とご協力をお願い致しますとともに、組合員並びにご家族の皆様が今年一年良い年でありますようご祈念申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。

共に頑張りましょう。

## 【干支のお話し】(教宣担当)

今年の干支は一般的に「酉」と言われておりますが、より正確には「丁酉（ひのととり）」となります。干支とは十干（今年は「丁」）と十二支（今年は「酉」）を組み合わせたものであり、60年で1周します。丁酉の年は俗説によると物事が転換期を迎える年と言われています。ちなみに60年前の1957年には初めて五千円札が発行され、その翌年には一万円札が発行されました。これは高度経済成長による高額紙幣の需要に応えるもので、それより前は千円札が最高額紙幣でした。この年は、お札を製造する印刷局にとっても、1つの転換期だったのかもしれない。